

高学年授業改善推進プラン

	児童の課題	改 善 策
国語 5年	・既習の漢字を正しく活用すること。 ・言葉の意味や使い方などを理解し、目的や意図に応じて適切な言葉を選んだり用いたりすること。 ・目的や意図に応じて、自分の考えが相手に伝わるように、構成や表現を工夫して話したり書いたりすること。	・漢字ドリルやノートでの練習だけでなく、自主学習で書き取り練習をしたり、漢字小テストを通して自分の苦手とする字を把握したりできるよう指導を行う。さらに、日常の中で文や文章を書く際には、既習の漢字を使ったり、熟語を用いて書いたりするよう指導し、漢字を正しく活用して使う習慣が身に付くようにする。漢字の再テストも行うことで、定着を図る。 ・「読むこと」の学習において、文章の中で用いられている接続語や修飾語などの言葉について、使い方や効果を、実感をもって理解できるようにする。また、「話すこと」や「書くこと」の学習でも様々な言葉を活用することで、適切に言葉を用いることができるようにする。その際、教科書の末尾に掲載の用語集や国語辞典などを積極的に活用する。 ・情報の収集や構成メモの作成など、内容の準備や検討が十分にできるように指導計画を立てる。また、タブレットを活用することで、言葉の順序や表現の工夫などをより検討させる。 ・説明的文章で学んだことと関連付けながら指導することを通して、文章構成や事例の挙げ方、図表の効果的な使い方などについて理解を図る。総合的な学習の時間など、他の教科との横断的な学習も意識して行う。
6年	・登場人物の心情について、描写を基に捉えること。 ・自分の意見とその理由を明確にして書くこと。 ・敬語や漢字の由来について理解し、正しく使うこと。	・「読むこと」の学習を中心に、文章の中で用いられている言葉や表現について、意味や効果を、実感をもって理解できるようにする。また、発問を工夫し、場面の移り変わりや登場人物の心情変化との関係について児童が捉えられるようにする。 ・「書くこと」の学習において、目的や相手を明確にして文章を書くように指導する。また、目的や相手に沿って自分の意見や理由を考える時間を十分に取る。 ・文章の構成を考えたり推敲したりする時間を十分にとり、自分の文章を読み返したり、友達と文章を読み合ったりする機会を設ける。また、文章の推敲が比較的簡単な Google ドキュメントなど、ICT を活用する。 ・日常の学校生活において、敬語を正しく使っている児童を価値付けたり、必要に応じて敬語の使い方を指導したりする。 ・学習活動の中で、校内の教職員や地域の方々と関わる機会を確保し、児童が敬語を使うべき場面を生み出す。 ・文や文章を書く際は、既習の漢字を使ったり、熟語を用いて書いたりするよう指導する。また、漢字の由来について指導し、漢字の成り立ちを理解できるようにする。
社会 5年	・資料を通して、情報を適切に読み取ること。 ・社会に見られる課題を把握し、資料などを活用して考察したり、説明したりすること。 ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとすることや、より社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うこと。	・地図帳や地球儀、統計などの資料を読み取る際の視点を示し、その資料と課題を結び付けて指導する。また、デジタル教科書や電子黒板などを積極的に活用し、視覚的に理解しやすいように学習を工夫する。 ・社会的な見方（時間的・空間的・関係的）・考え方（比較・分類、関連・総合）を働かせ、学習問題をまとめたり発表したりする機会を授業の中で増やしていき、思考力、判断力、表現力等を高めるように指導する。 ・農業や水産業、工業など、生活と深く結び付いている単元は、自分たちの生活との関わりから、課題に気付かせるようにする。また、国民の生活が食料生産や工業生産などの産業につながることに気付かせ、産業と国民の生活を関連付けることができるように指導する。

6 年	・資料集や地図帳などの基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめること。 ・社会的事象の特色や課題、関わり方などについて、考えたことを説明したり議論したりすること。 ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うこと。	・資料の特性に留意して情報を集めたり読み取ったりすることを確認し、社会的な見方（時間的・空間的・関係的）・考え方（比較・分類・関連・総合）を生かして資料を読み取るよう指導する。また、教科書だけでなく、資料集や本、インターネット検索など、複数の資料から情報をまとめることができるようにする。また、デジタル教科書、電子黒板、オクリンクプラスなどを活用してポイントを示しながら、資料から読み取ったこと、そこから考えたことをまとめることができるように指導する。 ・用語の意味や理由を確かめ、人物やその人物の出来事への理解を深める。 ・理解したことから自分の考えを文章で記述し、それを読み合い、発表したりすることや、資料などを用いて説明し、根拠や理由を明確に議論したりすることを適宜行い、思考力・表現力・判断力等の向上を図る。 ・導入では、児童が夢中になるようなクイズ等を取り入れることで、楽しく関心をもって取り組める雰囲気を作る。 ・他教科等やこれまでの社会科の学習の関連などを図りながら多角的に考えたり社会生活との関連を考えたりしてまとめる活動を行う。また、まとめでは、「自分だったらどう考えるか。」という問いを設け、自分の考えをもたせることを意識させることで、より自分事として捉え考えられるようにする。
算数 5 年	・4年生までに学習している整数、小数の四則演算を正しく計算すること。 ・小数のわり算を正しく計算すること。 ・三角定規、コンパス、分度器等を正しく使って作図すること。 ・単位量あたりの大きさや、割合について、意味とその求め方を理解すること。	・授業の中で計算する機会を増やしたり、既習の計算の仕方を繰り返し丁寧に確かめたりする。また、計算ミス減らすよう、テストなどで見直すポイントを確認する。 ・定着が不十分な児童には、補充のプリントを配布したり、授業の始めに数問の計算練習の機会をつくったりする。 ・特に小数で割る計算については、じっくりコースを中心に（その他コースでも状況に応じて）、筆算の手順の確認や小数点の位置の移動の確認をする。 ・授業の中で、既習の作図の仕方の確認や、各種用具の使い方の確認を丁寧にする。特に、平行四辺形の作図については、2学期の面積の学習に関連付けて、復習を行うようにする。 ・定着が不十分な児童には、休み時間や放課後に補習をする。 ・日常の事象における数量関係に着目し、線分図や式を関連させて考えさせるようにする。
6 年	・日常の事象における数量関係に着目し、比較量、基準量、割合の関係を理解すること。 ・平行四辺形の面積の求め方を理解し、式に表すこと。 ・数学のよさを実感し、生活や学習に生かそうとすること。	・比較量、基準量、割合の関係を捉えさせるために、数字の意味を理解させる。数量の関係を把握するために線分図と式を関連させて考えさせるようにする。その上で、求めた数字の意味から言えることを明らかにし、説明することができるような活動を常に取り入れる。 ・平行四辺形の面積の求め方の公式を覚えるのではなく、その公式の成り立ちや意味を理解し、説明できるようにする。また、与えられた条件（辺や図形の長さ）から、面積が求められるよう、日々、様々な図形に親しんでおく。 ・振り返りは学習内容のまとめりごとにかくようにする。より価値があり、具体的な振り返りが書けるように、振り返りを書く際に観点を示したり、よい振り返りについて紹介したりする。

理科 5年	・課題にそった、学習問題を立てること。 ・科学的な用語、基本的な知識などを定着させること。 ・実験や観察の結果を基に考察すること。 ・学習したことを日常生活に活用すること。	・児童から出た考えや疑問を学習問題とし、児童とともに導入をつくる。 ・調べたいことに関わる条件のみを変えることを繰り返し指導する。 ・科学的な用語は、授業内で意識的に使用するよう指導する。また、学習事項や関連した既習内容を復習する時間を取り、理解の定着を図る。 ・考察や結論を考えさせる前に問題を再度確認し、学習問題に対する答えとなるよう、繰り返し指導する。 ・結果と考察、結論の違いを明示して指導するなど、単元の学習の流れを児童と共通理解して授業を進める。 ・教科書の単元末に設定されている「たしかめよう」において、学習した内容が、生活に具体的にどのように関わっているかを考え、クラス全体で確認する。 ・授業の初めに、その日の天気や気温を確認したり、植物や、めだかの様子を観察する時間をつくったりして、終わった単元について継続的に触れる機会をつくり、既習事項の日常生活とのつながりや、その定着を図る。
6年	・観察、実験などで用いる様々な器具に関する基本的な技能を身に付け、その意味を理解すること。 ・観察、実験などの結果を基に、多面的に考え、より妥当な考えをつくりだすこと。 ・学習したことを日常生活の中での事象に活用して考えること。 ・科学的な用語、基本的な知識などの定着を図ること。	・児童一人一人が器具を操作する機会を設ける。実際に行う（行った）器具の操作にはどのような意味があるのかを考えさせる。 ・観察、実験前には、課題に対する予想を立てさせ、その際、自然現象や過去に行った関連する観察や実験を想起させる。また、結果を基に考察する際、予想や仮説、自分の経験や知識などを関連付けて考察するように促す。 ・学習した内容と生活が結び付くように、日頃の生活に立ち返って考えさせる。 ・教科書の「理科の世界」では、学習した内容が、実生活の中でどのように関連付いているのかを考えるきっかけとする。問題で設定されている場面以外で、どのような場面で活用できるかを出し合う時間を設定する。 ・学習事項と関連した既習内容を復習する時間を取り、理解を定着させる。
音楽 5・6年	・作者の思いや意図、聴き取ったことと 感じ取ったこととの関わりについて 考えながら楽曲を味わうこと。 ・楽譜を読み解き、強弱記号や音の高低 などから表現の工夫を考えること。 ・自分の思いや意図をもち、それにふさ わしい表現をするために必要な技能 を身に付け、人前での表現発表に慣 れること。	・感じ取ったことを基に、音楽を形づくっている要素の働きとの繋がりに気付けるような発問や、調べ、考える学習を多く取り入れる。 ・音楽に対して「こんな風に演奏したい」という思いや意図をもつ基礎となる、知識・理解を定着させる。聴き取り活動の充実を図るために、副教材等を活用して、楽譜と音との関連を意識させ、その曲のよさを感じ取り、表現活動へつなげていくようにする。 ・表現するための知識や技能を身に付けた上で、自信をもって演奏できるよう、個人の発表機会を設けるほか、動画撮影により自身の演奏を客観的に振り返らせる。また、少人数グループで合奏や音楽づくりに取り組み、自分の考えを表すことにも慣れさせる。
図工 5・6年	・作品に愛着をもち、素材や用具に主体的に関わりながら活動すること。	・児童が意図をもって作品をつくったり、自分の作品に対して愛着をもったりすることができるよう、児童自身が形や色を選択できる機会を多く設ける。 ・素材のよさや面白さを全体で共有する場を設けたり、そのよさや面白さを生かしながら制作する児童を意図的に取り上げたりして、価値付ける。

	・ 用具や材料を安全で適切に使うこと。 ・ 自他の作品のよさや面白さを認め合い、鑑賞することの楽しさを味わうこと。	・ 児童自身の作品に自己の思考の変化や広がりを感じられるように、毎時間振り返りを行ったり、ある程度の題材時間を確保したりする。 ・ 前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かせるような題材設定をする。 ・ 用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、クロムブックを活用しながら、正しい使い方を全体に指導する時間を十分に設定する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度や表現したいことによって個別に指導していく。 ・ 題材の面白さを全体で共有するだけでなく、自分の作品について説明したり、書くこと、互いの作品について感想を述べ合ったりするなどの言語活動を充実させる。 ・ クロムブックの共有ドライブを活用し、日頃から友達作品を見ることができるようにする。
家庭 5・6年	・ 実生活の生活体験が少なく、家事に対する関心や意識が薄い児童が見られること。 ・ 日常生活の中で課題に気づき、自分で解決しようとする力が十分に育っていないこと。	・ 授業の導入時に、教師自身の生活の様子を話したり、実際の家事を行っている動画を提示したりすることで、学んだことが日常生活に役立つというイメージを児童がもてるようにする。 ・ 長期休暇の宿題や日常生活の中で、学校で学んだ内容を実践する機会を設け、その後グループでの振り返り活動を行うことで、課題を発見し解決につなげる授業を実施する。 ・ サポート松仙の方々の協力を得て、実技面でつまずきが見られる児童への支援や、安全対策を充実させる。 ・ 授業内容に関連するゲストティーチャーを招き、児童の知識や関心を広げられるような働きかけを行う。
体育 5年	・ 意欲的に取り組んだり、自分ができるようなことに挑戦したりすること。 ・ 運動に消極的な児童の意欲につながる授業形態にする。 ・ 「する」だけでなく、「見る」「支える」「知る」の視点をもって活動できるようにすること。	・ それぞれの単元の主運動につながるよう、準備運動を工夫する。また、準備運動のタイミングから、体育学習への意欲をもてるような内容にする。 ・ ルールを簡易化したり、全員が参加できるようにゲームの形式を工夫したりする。 ・ 授業形態や、ワークシートの書く視点を、「見る」「支える」「知る」に合わせる。 友達と関わり合いが増えるよう、チーム編成や活動内容を工夫する。また、ワークシートを、「する」だけでなく、「見る」「支える」「知る」の視点に沿った内容にして、構成を工夫することで、友達との関わりを振り返りやすくする。
6年	・ 苦手意識をもっている領域の運動に対して、意欲的に取り組んだり、自分でできそうなことに挑戦したりすること。 ・ 自分のめあてや課題を設定し、それに合う練習の場や方法を選ぶこと。	・ その領域の主たる運動につながる楽しい補助運動を単元や授業の始めに設定し、どのような練習をすればできるようになるのかというポイントを明確に示したり、スモールステップで練習できる場や練習方法を工夫したりする。それらを児童が選択して活用できるようにする。 ・ 学習カードに、毎時間、自分のめあてや課題を書かせ、それが適切であるかどうかを必要に応じて助言する。多様な練習の場や方法を準備し、どのようなめあてや、課題を設定したら、その場や方法が有効であるのかを明確に示す。また、児童の振り返りや達成度を基に、次時へのステップを伝える。
外国語 5・6年	・ 外国語を通して積極的にコミュニケーションを図る力を養うこと。	・ 一人一人が話す機会をもち、授業に参加できる場を設定する。 ・ ALTと教員とのスモールトークを聞かせ、話の概要をつかませる。 ・ スモールトークのトピックとして、既習事項を活用できるテーマを設定することで、学んだことを生かしてコミュニケーションできるようにする。

	・ 長めのストーリーを聞いて話の内容をとらえること。 ・ 身近なことについて簡単な文章を書くこと。	・ コミュニケーション活動を少人数で行い、一人一人が少しでも多く話せるように工夫する。 ・ 音声を聞く前に、イラストを見ながら内容について、十分にやり取りを行う。 ・ 聞こえた単語をできるだけたくさん書かせ、それを元にどんな内容だったか推測させたり、話の順番を考えたりする活動を取り入れる。 ・ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く活動を取り入れる。 ・ 4線を意識させながら文字を書かせる。 ・ 書く活動が苦手の児童には、タブレットを活用する。
--	--	--